

69号の11月号で休紙となっていました、今後も出来る限り発行してまいります。

(多くの町民の皆様のご意見や要望に応え、南三陸町の変化を伝えてまいります。)

千葉印刷

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成29年(2017年)

9月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

- ◆7月15日のオープンとなった「サンオーレそではま」の29年の入り込数は1万8千人にとどまった。オープンからの3日間で6,400人の入場となったものの、期間の37日間のうち天候不順により6割の23日しか開けなかった。目標の4万人を大きく下回った。
- ◆志津川高校の文化祭「旭浦祭」が2日から開幕し、志高生1年から3年生の50人が恒例の「仮装行列」で一般公開をPRした。行列は「さんさん商店街」も訪れ、観光客を喜ばせた。
- ◆南三陸町役場が被災から6年半を経て完成し、9月3日午前10時から開庁式が行われた。庁舎は全て地元産の「南三陸杉」が使われた。一般公開は10日午前10時からで、一般の方々の見学会が行なわれた。
- ◆南三陸町役場・歌津支所は、FSC(森林管理協議会)認証を建物全体に利用した、「全体プロジェクト認証」の伝達式が行われた。町の防災拠点に位置付け、木のぬくもりを感じる役場業務開始に町民の笑顔が溢れた。
- ◆南三陸・気仙沼広域の救急出動が、震災前の2.4倍に増加している。被災地の人口減にも関わらず、高齢化や携帯電話が背景にありそうだ。2017年は約3,500件の出動件数で、搬送人員は約3,100人となった。
- ◆5日、南三陸警察署では10月17日告示の南三陸町町長・町議選にあたり、取締本部を設置し「公平公正な選挙」へ選挙違反の監視強化を図る。
- ◆南三陸町のサンオーレそではまで、東北で初のビーチアルティメットの大会が開催された。フライングディスクを使ったスポーツで、仙台の大学生チームが優勝をかざった。
- ◆9月定例議会で、29年4月に発覚した「家賃

平成29年(2017年)

8月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

- ◆7月31日JA南三陸を含む県北8農協の合併に向け、「県北部地域農業協同組合合併推進協議会」が設立された。
- ◆南三陸町災害公営住宅の空き室(戸倉3、志津川東16、中央22、西4)の一般公募を(45戸)今月中旬から始める。

南三陸町の活動から、戸倉公民館「海藻おしぼりを作ろう」・町地域包括センター「もの忘れ相談」・南三陸母子支援「ママかふえ」。

- ◆歌津中消防クラブは、オーストリアで開催の「青少年消防オリンピック」の出場報告を町長におこなった。経験をこれからに生かして欲しい。
- ◆6日歌津地区の「復興夏祭り」が開催され、ゲストにBEG INがコンサートを行ったり、「夢メッセージ花火」約1500発が夜空を彩った。

3月29日国道45号「汐見橋」渡り初め



建物は高野会館

未請求問題」は解決へ向かう。また、介護保険と町税で誤りが見つかり、佐藤町長が議会で報告した。

- ◆志津川地区の「さんさん商店街」は、半年が経過し三陸道の「終点効果」もあり、仙台圏からの人出が落ち着くも好調を維持している。半年間で約51万人と、仮設時代は年間平均の40万人よりも入り込数が増加している。
- ◆志津川高校生を「一日隊員」に任命し、ウジエスーパー駐車場で「救急医療」や「119番の正しい利用」などを学んだ。南三陸消防署で5年ぶりの開催だった。
- ◆震災から6年半となった現在、8月末で南三陸町の犠牲者は620人、行方不明者は211人となり、関連死は20人となっている。仮設の入居者は241戸で、入居者は584人で入居率は12.3%となっている。

「高野会館」遺構保存プロジェクトのメンバーが、高野会館を震災遺構として、震災復興祈念公園エリアへの組み入れを要望した。メンバーは阿部さん(高野会館所有者代表とホテル観洋副社長)他2人で、最知副町長に「要望書」を手渡した。

南三陸町議会は新庁舎1階のカフェスペースを、町内のNPO法人「ピバ!南三陸」に36万円減免した年額12万円で貸し付ける事を可決した。貸付期間は5年間とした。

- ◆北朝鮮の再度のミサイル発射で、南三陸町は午前7時1分のJアラートの第一報を屋外防災無線と戸別無線を通して各戸に放送した。
- ◆南三陸ホテル観洋で東日本大震災に見舞われた、志津川の高野会館と阪神淡路大震災の遺構保存写真展が開かれて、10月15日まで5階で開催している。
- ◆南三陸町の災害公営住宅家賃未請求問題は、佐藤町長らの責任は懲戒審査を持って対応することが報告され、町議会の「町営住宅使用料等調査特別委員会」で協議した。
- ◆南三陸町の選挙は、10月22日投票が有力となり、町長・町議・衆院のトリプル選となった。

- ◆6日歌津の泊浜漁港付近の海岸で、午後6時頃本吉町の3歳児が死亡した。
- ◆9～11日東北復興野球大会が開催され、歌津では試合と教室を行なう。
- ◆8日南アジア諸国の水産行政官らが、独立行政法人国際協力隊(JICA)の支援を受け、南三陸町を訪れ、東日本大震災からの水産業の復活について、地元水産事業者と交流をした。
- ◆南三陸町入谷の油絵愛好家菅原文雄さん(67)の作品、「里山の女・絆」が国内最大級の公募展「日美展」で優秀賞に選ばれた。

南三陸町歌津伊里前の「南三陸町民俗資料館」を国の文化審議会は、文化財として文部大臣に答申した。今秋には正式に登録される見通し。建物は1957年(昭和32年)に増築され、1階は調理室、2階は作法室として利用された。

- ◆お盆の帰省客に合せ、さんさん商店街で「盆踊り」。まちづくり団体「南三陸ふっかつ青年会」が主催。

東部児童相談所気仙沼支部の16年度のまとめで、相談は414件で発達障害などの「障害」が307件で全体の74%を占めた。少子化の中でも相談は増加している。

- ◆南三陸町の「復興推進ネットワーク」が被災農地で作った米から製造した、「おら酒雷神」が

歌津の商店街「ハマレ歌津」では、にぎわいや地域コミュニティづくりの拠点として、「商店街コミュニティ施設」の建設が始まった。ウニ・ホヤのむぎ身体験もできる場所として、観光客の増加を図って行く。

- ◆気仙沼合同庁舎の新庁舎が開庁をする10月10日付けで、気仙沼振興事務所と気仙沼県税事務所の組織改編を行い、南三陸支所を廃止する。
- ◆南三陸町入谷地区に休耕田を活用した、自然素材を使った遊び場「花見山ランド」を整備した。

南三陸町の敬老会が開催され、数え77歳以上の対象者は男924人、女1594人の合計2518人だった。志津川地区1037人(男372人・女665人)、歌津地区785人(男294人・女491人)、入谷地区416人(男151人・女265人)、戸倉地区280人(男107人・女173人)となった。友人との再会を懐かしみ、近況を話し合うなど楽しいひとときを過ごした。

- ◆県や仙台市が実施している。「おとな救急電話相談」が10月1日から始まる。救急車を呼ぶか迷ったら、電話で看護師からアドバイスが受けられる。番号は「#7119」で、プッシュ回線や携帯電話で利用できる。気仙沼・本吉地域広域消防本部の地域からも利用でき、「救命率向上や救急車の適正利用につながる」と期待している。

- ◆9月13日夕方、南三陸町志津川中央団地の災害公営住宅で、共用電源のトラブルによる停電が発生した。全世帯が断水し、エレベーターの閉じ込めはなかったが、町は原因を調査中で、本復旧を目指していると報告した。

防災庁舎と国道398号、遠くに志中を望む



3月29日撮影

- ◆フランスの日本酒コンクールで金賞に輝いた。
- ◆子どもたちがパソコンを使ったイラストや、文字入力の正確さを競う全国大会で「アビバキッズ志津川教室」が3年ぶり2度目の総合優勝を飾った。
- ◆歌津地区の「盆踊り」がハマレ歌津で7年ぶりに復活した。夕方からの雨の中、地区民の輪が広がった。
- ◆南三陸町の復興応援大使の田畑英伍さん(80)と在仙志津川会の及川龍治さんが、「復興の様子を撮影して」と、町にドローン1機(30万円相当)を贈った。
- ◆南三陸町さんさん商店街の来場者が8月21日までに50万人を突破した。年間の目標を80万円としていて、三陸道効果が期待されている。
- ◆南三陸町の「戦没者追悼式」が開催され、遺族約100人が集まった。これまで戦争で848人が戦地で亡くなった。
- ◆2016年度の気仙沼県税事務所管内の県税収入見込みが50億円となり、法人事業税は1.7億円で、全体総額は1割の増加となった。
- ◆東京都教育庁主催の「南三陸で防災キャンプ」が実施された。都内の高校生が志高生と交流をし「震災・復興状況」を聞いた。目的はグループワークなど将来の災害時のリーダー養成としている。
- ◆南三陸ホテル観洋で、大学生の就業体験が実施され、大学生インターンシップには東京都や千葉県、大学の他に、初めて広島県の大学からも受け入れた。